

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 30 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2017 年 5 月 12 日（金） 13 時 30 分～ 16 時 30 分
2. 場所： 原子力安全推進協会 B 会議室
3. 出席者（順不同，敬称略） 開始時
（出席委員） 川上（主査），北島（幹事），黒澤，新津，泉田，尾崎，田中^{（雄）}，田辺，
亀尾，佐々木，見上，三宅，伴場，脇（14 名）
（代理出席委員） 相澤，宿谷（2 名）
（欠席委員） 高橋，池戸（2 名）
（常時参加者） 井上，田中（正），林（隆），漆戸，柏木，乾，西尾，林（宏），副島（9 名）
（常時参加者候補） 梅原（1 名）
（欠席常時参加者） 石屋，中野（2 名）
（傍聴者） 森山（1 名）
4. 配付資料
F10Ph2SC30-0 第 29 回 LLW 放射能評価分科会 議事録案
F10Ph2SC30-1 人事について
F10Ph2SC30-2-1 原子燃料サイクル専門部会への中間報告状況
F10Ph2SC30-2-2 標準委員会への中間報告状況
F10Ph2SC30-3-1 中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順：20XX
（改定案）（一式）コメント反映
F10Ph2SC30-3-2 中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順：20XX（改定案）に対
するコメント対応一覧表
F10Ph2SC30-4-1 【本報告】AESJ-F015：20XX「中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の
基本手順」の改定（案）
F10Ph2SC30-4-2 【本報告】（概要）OHP 資料案 AESJ-F015：20XX「中深度処分対象廃棄物の放射
能濃度決定方法の基本手順」（改定案）
F10Ph2SC30-5 L2・L3 放射能評価標準改定の趣旨
F10Ph2SC30-6 「LLW 放射能評価分科会」の審議の基本計画
F10Ph2SC30-参考 1 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 委員名簿
F10Ph2SC30-参考 2 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) の基本工程

5. 議事

(1) 出席委員の確認

北島幹事より，開始時点で委員 18 名中 16 名の出席があり（代理出席含む），決議に必要な委員
数（12 名以上）を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録案の確認 (F10Ph2SC30-0)

北島幹事より、前回分科会の議事録案について説明があり、承認された。

(3) 分科会人事について (F10Ph2SC30-1)

北島幹事より、都筑康男氏（原子力安全推進協会）の常時参加者の登録解除の報告が行われた。また、梅原隆司氏（原子力安全推進協会）及び本山光志氏（日揮株式会社）の常時参加者の登録が承認された。

(4) 専門部会・標準委員会への中間報告状況 (F10Ph2SC30-2-1, 2-2)

柏木常時参加者より、L1 放射能評価標準改定に関する原子燃料サイクル専門部会（2017年2月28日）及び標準委員会（2017年3月8日）への中間報告の状況について説明があった。また、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会で指摘されたコメント等については、L1 放射能評価標準改定案又は本報告用資料にて対応（反映）している旨、あわせて説明があった。

(5) L1 放射能評価方法標準改定案 (F10Ph2SC30-3-1, 3-2)

柏木常時参加者より、L1 放射能評価標準改定案に対する各委員・常時参加者から提出されたコメントの内容、及びコメントの反映方法案について説明があり、参考文献の取扱い以外の部分の修正案に関して、コメントを反映したもので了解された。なお、以下の質疑応答、コメントがあった。

- ・ (No. 12) “放射化金属等の内部に含まれる放射能濃度” に対するコメントの主旨は、内部に放射能濃度が含まれると受け取られる表現に対するものである（汚染と放射化の区分に関するものではない）。

→ 拝承。“放射化金属等の内部の放射能濃度” などの適切な表現に見直す。

- ・ (No. 17) “同じ材料種類” は、SUS304 などの材料の種類の意味が、このままでは理解しにくい。

→ 拝承。“同じ材料の種類” に修正する。

- ・ (No. C15) “水、その他の構造物間にある遮蔽材などを含む” は「及び」でつなぐ必要はないか。

→ JIS 様式では、並列の用語に“など” が付いている（まだ他にも含む意味を含んでいる）場合は、「及び」ではなく、「カンマ」でつなぐこととされている。

- ・ (No. D3) ここでの記載に“燃料サイクル” との表現は不要ではないか。

→ 拝承。箇条書きの記載を「一制御棒、原子炉容器又は他の炉内構造物の累積照射時間。」と「一チャンネルボックス又は燃料集合体の燃焼度。」に修正する。

- ・ (No. F13, F16, I13, N2) ORIGEN, MCNP, JENDL などの一般的なコードの出典の標準への記載の是非については、今後、関係者から文献等の情報を提供いただいた上で、再度議論を行うこととなった。また、標準への記載が必要となった場合は、原子燃料サイクル専門部会又は標準委員会への本報告時のコメント対応とあわせて修正（追記）することとなった。

- ・ (No. M1 など) 放射能は JIS では、量 (radioactivity: Bq) も表す用語のため、量を付けずに使用するため、現状の表記のままとする。

(6) 専門部会への本報告 (F10Ph2SC30-4-1, 4-2)

柏木常時参加者より、原子燃料サイクル専門部会への本報告用の報告資料案について説明があった。本資料については、分科会のコメント等を反映の上、原子燃料サイクル専門部会に本報告することとした。なお、以下のコメントがあった。

- ・ F10Ph2SC30-4-1 の理論計算法の概要の図と F10Ph2SC30-4-2 の同様の図 (P. 8) などの用語 (元素成分条件など) はなるべく合わせたほうがよい。
→ 拝承。両図の整合を図った上で見直しを行う。
- ・ F10Ph2SC30-4-2 の処分方法の図 (P. 2) で、中深度処分の深さが“地下 50m より深い深度”と記載されている。
→ 拝承。“地下 70m より深い深度”に修正する。
- ・ F10Ph2SC30-4-2 の検出困難元素の説明 (P. 12) において、Th と U の記載順が統一化されていない (U, Th の場合も、Th, U の場合もある)。また、検出下限値についても、検出値の下限や検出限界値など複数の表現で記載されている。
→ 拝承。“Th, U”と“検出下限値”に統一する。

(7) L2・L3 放射能評価方法標準の改定 (F10Ph2SC30-5)

北島幹事より、「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：2011」(AESJ-SC-F022：2011)を改定する主旨、及び改定計画について、説明があった。

なお、本 L2・L3 放射能評価標準改定の基本的な目的は、L2・L3 放射能評価に係る新知見 (スクレーリングファクタ等の継続使用方法の規定化、C1-36 放射能評価、原廃棄物分析法、解体廃棄物の放射能測定など) 及び L1 放射能評価標準の改定内容の取り込みであり、2018 年度中の標準制定を目標に検討を進めていくことが確認された。

(8) 標準改定の全体計画 (F10Ph2SC30-6)

北島幹事より、L1 放射能評価標準改定案については、次回原子燃料サイクル専門部会 (2017 年 5 月 25 日) に本報告を行う予定であるとの説明があった。また、次回分科会は、L2・L3 放射能評価標準の改定等に関する審議を行う予定であるとの説明もあった。

6. 次回の予定

次回分科会は、2017 年 6 月 29 日 (木) (13:30～, 原子力安全推進協会の会議室) とし、正式な案内は、別途、事務局から連絡する。

以 上